

saveMLAK ニュースレター

第 27 号

saveMLAK 報告会 2014 開催！

2011年3.11の東日本大震災の翌日から始まった文化施設への復興支援活動 saveMLAK（セイブ・エムエルエイケイ）に、エル・ライブラリーのスタッフもボラティアで参加し続けています。その年次報告会が6月22日（日）に開催されました。

当日は横浜会場と大阪会場（エル・ライブラリー）とを結んで Ustream 中継し、午後の部では実際にエル・ライブラリーを使って「小規模図書館の防災訓練」を実施しました。

横浜会場からの白井哲哉氏（筑波大学図書館情報メディア系教授）の基調講演「被災資料と災害資料の保全活動－フクシマから考える現状と課題－」を Ustream 中継で聞き、その後の博物館（M）、図書館（L）、公民館（K）の年次報告も横浜から中継してもらいました。大阪会場からは文書館分野（A）の報告を松岡弘之さん（大阪市史編纂所勤務）が担当されました。

全体報告としてはプロジェクトリーダーの岡本真さん（アカデミック・リソース・ガイド（株）代表取締役）が、三年目の支援活動全体を見渡して、できたことでできていないことを整理して語りました。「急がずに、しかし休まずに」をスローガンにこれまでプロボノ支援を行ってきたこと、この1年間に「saveMLAK メソッド」という実践訓練を3回行い、少しずつ前に進んでいることが報告されました。

大阪会場の松岡さんは、特定秘密保護法の制定などアーカイブズ関連の動きを整理し、史料ネットが東北に根を張った活動を地道に行っていること、さらにこの1年に起きた台風や水害へのレスキュー活動実態について報告しました。

当日発表された報告スライドなど詳細はこちら（補足：<http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/20140622>）のサイトにあります。

午後からはエル・ライブラリーを舞台に、防災訓練「saveMLAK メソッド」を行いました。これは2013年9月に当館で行った実践訓練（専門図書館関西地区協議会主催）と同じものです。写真のように、実際に大地震が起きたと想定して避難誘導の訓練をします。まずは全員が机の下にもぐりますが、そのあと、次々と悲惨な状況設定が畳みかけるように起きて、参加者は真剣な面持ちで話し合いを繰り返し、状況に対処していました。



2時間の訓練が終わって、皆ぐったりしていました。というのも、次々に起きる「死傷者の存在」「スタッフの負傷」「責任者が動けない」「行方不明者の存在発覚」といった事態に対処するために頭をフル回転させていたためです。メンタル面も鍛えておくことが必要だと実感させられる訓練でした。いざという時のために繰り返しシミュレーションをすることが大切です。

今後、saveMLAKはこの「メソッド」の普及活動を重点課題として取り組んでいきます。ぜひ多くの方々の実践参加を。災害は忘れたころにやってきます。

【谷合 佳代子】

この記事は、2014年7月4日付けのエル・ライブラリー様のブログから転載いたしました（編集注）
<http://d.hatena.ne.jp/l-library/20140704>



saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません。

6月の出来事と今後の予定

2014年7月18日

第40回 saveMLAK MeetUp

複数会場（横浜、大阪）で開催予定

2014年6月22日

saveMLAK 報告会 2014

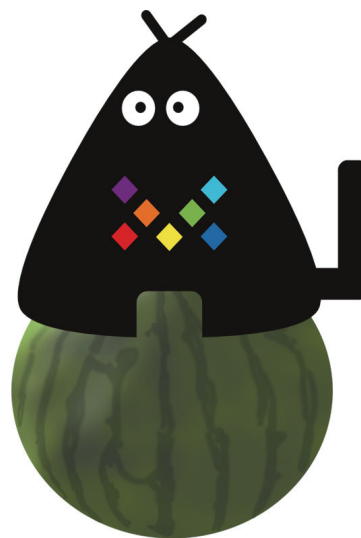
～社会教育・文化施設の救援・復興支援～

複数会場（横浜、大阪）で開催

2014年6月17日

第39回 saveMLAK MeetUp

複数会場（横浜、大阪）で開催



saveMLAK 会計 2014年6月期収支

6月末日現在

<収入>

受取寄付金	7,439	有志等
グッズ売上	4,200	報告会
雑収入	10,000	ソフト代金還付

計	21,639	

<支出>

支払報酬	19,558	税理士報酬
支払手数料	324	振込手数料

計	19,882	

6月末日現在 残高

1,349,004 円 (5月比 +1,757 円)

【ファンド係：赤塚 昌俊】

saveMLAK 統計 2014年6月現在

ML アカウント数	285 (+1)
総ユニーク wiki 編集者	
アカウント数	503 (±0)
wiki 編集回数の統計	146,061 (+338)
総 wiki ページ数	29,468 (+4)
総 wiki 施設ページ数	25,674 (±0)

編集後記

先月は無事に報告会を実施する事ができました。saveMLAK も気づけば3年経ちました。そして私がメンバーになったのはその半年後あたりなので長い付き合いになっています。

報告会に参加して頂いた方々、Ustream や Twitter 等で閲覧した方々およびその他関係者の皆様、ご参加していただきありがとうございます。

【今号編集担当：富澤 美典】

編集発行：saveMLAK プロジェクト

発行日：2014年7月14日（第26号）

発行所：神奈川県横浜市中区相生町3-61 泰生ビル

さくら Works<関内>408

アカデミック・リソース・ガイド株式会社内

saveMLAK プロジェクト

E-mail：pr@savemlak.jp

URL：http://saveMLAK.jp/



saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません。